

京の生きもの生息調査 手引書



しゃん し が けんりつ び わ こ はくぶつ かん ていきょう
写真:滋賀県立琵琶湖博物館 提供

水田の魚「ミナミメダカ」を探そう！

京の生きもの生息調査は、市民の皆さんに身近な生きものの生息状況を調査してもらうことで、京都市の自然の“いま”を知り、環境を守る取組につなげるための調査です。

今回の調査対象は「ミナミメダカ」。この手引書では、ミナミメダカの暮らしや私たちとの関わりなどを紹介しています。

生きものの暮らしを見つめてみると、京都の自然の姿が見えてきます。

さあ、生きものを探しに出かけてみましょう！

ミナミメダカを見つけたら京・生きものミュージアムから報告をお願いいたします。

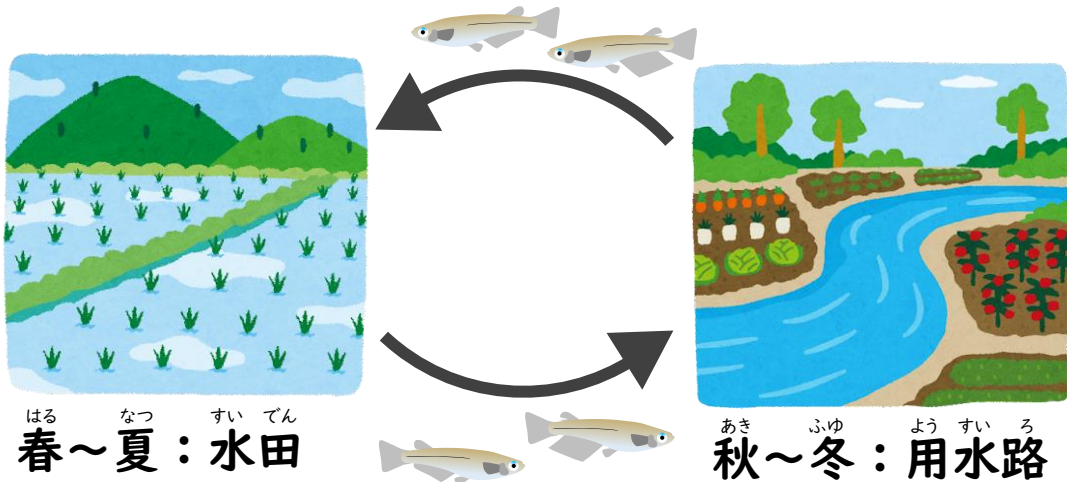
京の生きもの生息調査

検索



メダカってどんな魚？

- 体長3cm程度の小型の淡水魚で、水田、用水路、ため池などの流れの緩やかな淡水域に生息しています。
- 国内にはミナミメダカとキタノメダカの2種類のメダカが生息しており、市内にはミナミメダカが生息しています。
- 春先に用水路から水田に移動して産卵し、秋頃に用水路に戻り越冬するという生活史を持つことから、「水田の魚」とも呼ばれています。

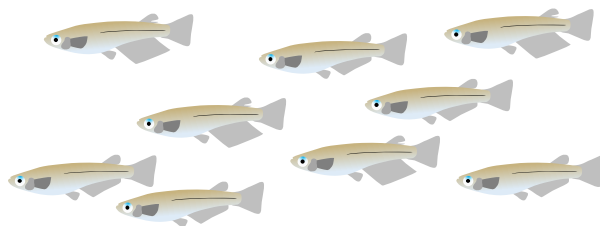
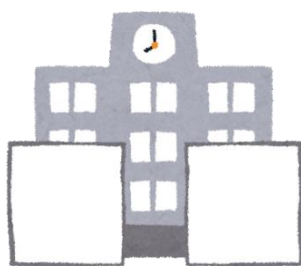


メダカを探して分かること

- メダカが生息している水辺は、「氾濫原」という川が洪水した時に冠水する場所で、陸地と水辺の中間的な特徴を持つため、多様な生きものを育む場所となっています。
- メダカの生息状況を知ることで、生物多様性の保全において重要な氾濫原の現状が把握でき、市内の「水辺の豊かさ」がわかります。
- また、メダカは季節によって生息場所を移動するため、発見場所から、季節の移ろいを感じることができます。

わたし く め だ か 私たちの暮らしとメダカ

- 童謡「めだかの学校」で歌われるなど、私たちの身近な魚として親しまれています。
- 地方によって様々な方言で呼ばれており、なんと5,000語も呼び方があるとされています。



め だ か げん じょう き き メダカの現状の危機

- かつては身近な魚の代表であったメダカですが、開発や農薬、外来種などの影響により、絶滅が危惧されています。
(京都府改訂版レッドリスト2023では絶滅危惧種に掲載)
 - また、観賞用のメダカなど市販のメダカが放流されることで、その場所に元々住んでいたメダカの遺伝的固有性が失われる危険性があります。
- 飼っているメダカは放流せず、最後まで責任をもって飼いましょう。

メダカの保全のためには、メダカがどこに生息しているのかなど、情報を集め、メダカが生息する水辺環境の現状を正確に把握する必要があります。

皆さまからの発見報告をお待ちしております!

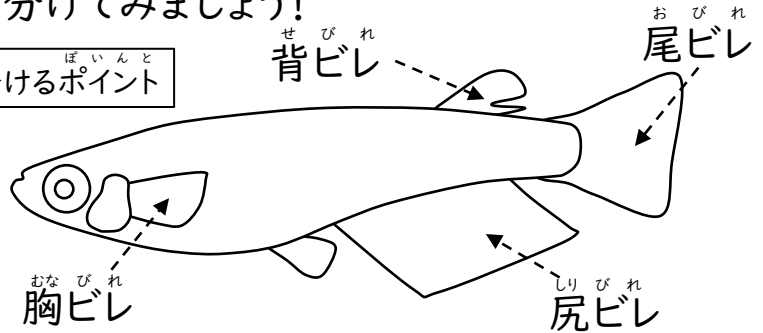
よく似た魚との見分け方

水田や用水路ではメダカによく似た小さな魚を見つけることがあります。
よく観察して、メダカかどうかを見分けてみましょう！



写真:滋賀県立琵琶湖博物館 提供

見分けるポイント



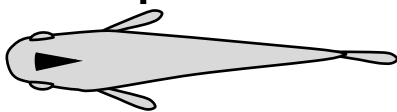
上から見た場合

頭や胸ビレが大きい

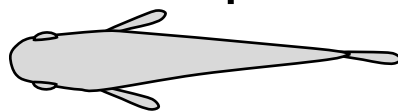
体が細く頭に黒色の模様はない

頭の黒色の模様が目立つ

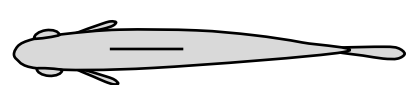
頭の黒色の模様が目立たない



メダカ



カダヤシ
(特定外来生物)



他の魚の子ども
(オイカワなど)

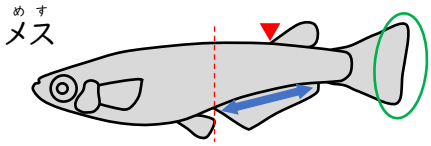
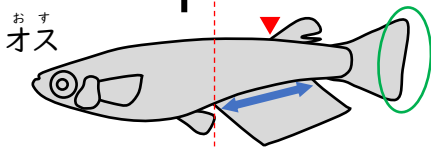
横から見た場合

背ビレが尻ビレのつけねよりも後ろに付いている

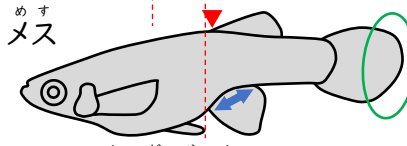
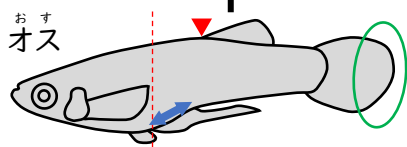
背ビレが尻ビレのつけねよりも前に付いている

尻ビレ:体に沿って長い
尾ビレ:後ろがまっすぐ

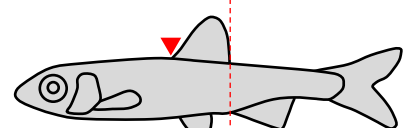
尻ビレ:体に接する部分が少ない
尾ビレ:後ろが丸い



メダカ



カダヤシ
(特定外来生物)



他の魚の子ども
(オイカワなど)